

味の素製薬(株)が進める オープンイノベーションへの取組み



味の素製薬株式会社

ひとを見つめる創薬

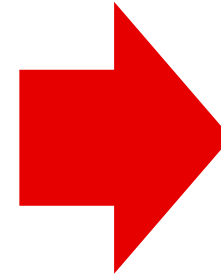
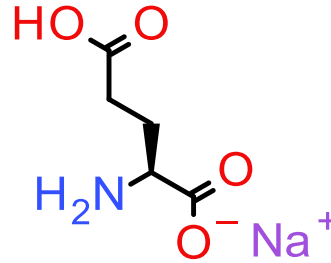
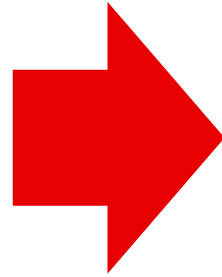
味の素製薬（株） 創薬研究所

味の素グループと産官学連携の歴史

昆布だしのうまみ成分とは？

グルタミン酸モノナトリウム塩

調味料「味の素®」



「アミノ酸の科学から出発したグローバル健康貢献企業グループ」

- * 昆布から、うま味の正体を単離・精製し、構造決定（1908年）
 - 池田菊苗博士：東京帝国大学（現、東京大学）
- * 天然うまみ成分グルタミン酸を調味料として販売することで創業（1909年）
- * グルタミン酸は、アミノ酸であり、うまみ調味料であり、生体内で重要な役割を担う生理活性物質でもある
 - 生産技術の向上・蓄積 ⇒ アミノ酸の生産量世界No. 1
 - うまみ調味料 ⇒ グローバル食品企業グループに成長
 - アミノ酸についての科学的興味 ⇒ バイオ・先端医療関連事業

味の素グループビジョン

私たちは、お客様に役立つ独自の価値を創出し続ける

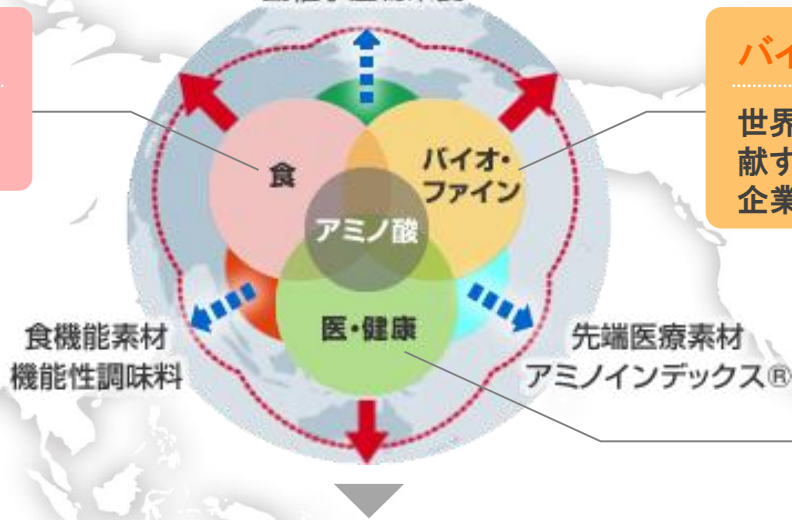
「グローバル健康貢献企業グループ」

を目指します。

低資源発酵
動植水産物栄養

食品分野

世界No.1の調味料事業を中核とする
グローバル食品グループへ



バイオフィン分野

世界No.1のアミノ酸技術で人類に貢献する
グローバルアミノサイエンス企業グループへ

医薬・健康分野

おいさと健康を科学する
健康創造企業グループへ

21世紀の人類社会の課題解決



地球持続性

環境、資源の循環



食資源

非可食原料の活用



健康な生活

不足栄養・過剰栄養の改善
高齢化への対応

「味の素®」から広がった商品群

おいしさと健康を追求し、
さまざまな領域へ。



味の素製薬株式会社

AJINOMOTO®



ひとを見つめる創業

「食」と「健康」そして、「いのち」のために

「グローバル健康貢献企業グループ」を目指し、
いのちのために働く味の素グループ。

私たちは、味の素グループならではの
薬づくりを通して、一人ひとりの
健康とよりよい生活に貢献します。

**消化器疾患領域を軸とした味の素グループならではの
薬づくりにより、事業を通じて社会的価値を創造する
スペシャリティファーマを目指します。**

会社概要

社名	味の素製薬株式会社 (AJINOMOTO PHARMACEUTICALS CO., LTD.)
発足日	2010年4月1日
本社所在地	〒104-0042 東京都中央区入船二丁目1番1号
代表者	代表取締役社長 長町隆
資本金	4,650百万円
従業員数	約1,200名
事業内容	医薬品の研究開発・製造・販売
事業所	本社 東京

味の素グループの医薬品開発の歴史

1956

Amino acids
supply for
pharmaceuticals



1995
ATELEC®



1999
FASTIC®
/STARSIS®



2002
ACTONEL®
/BENET®



2013
MOVIPREP®



2014
ATEDIO®



1981
EENTAL®

1986
LENTINAN

1991
HEPAN ED®

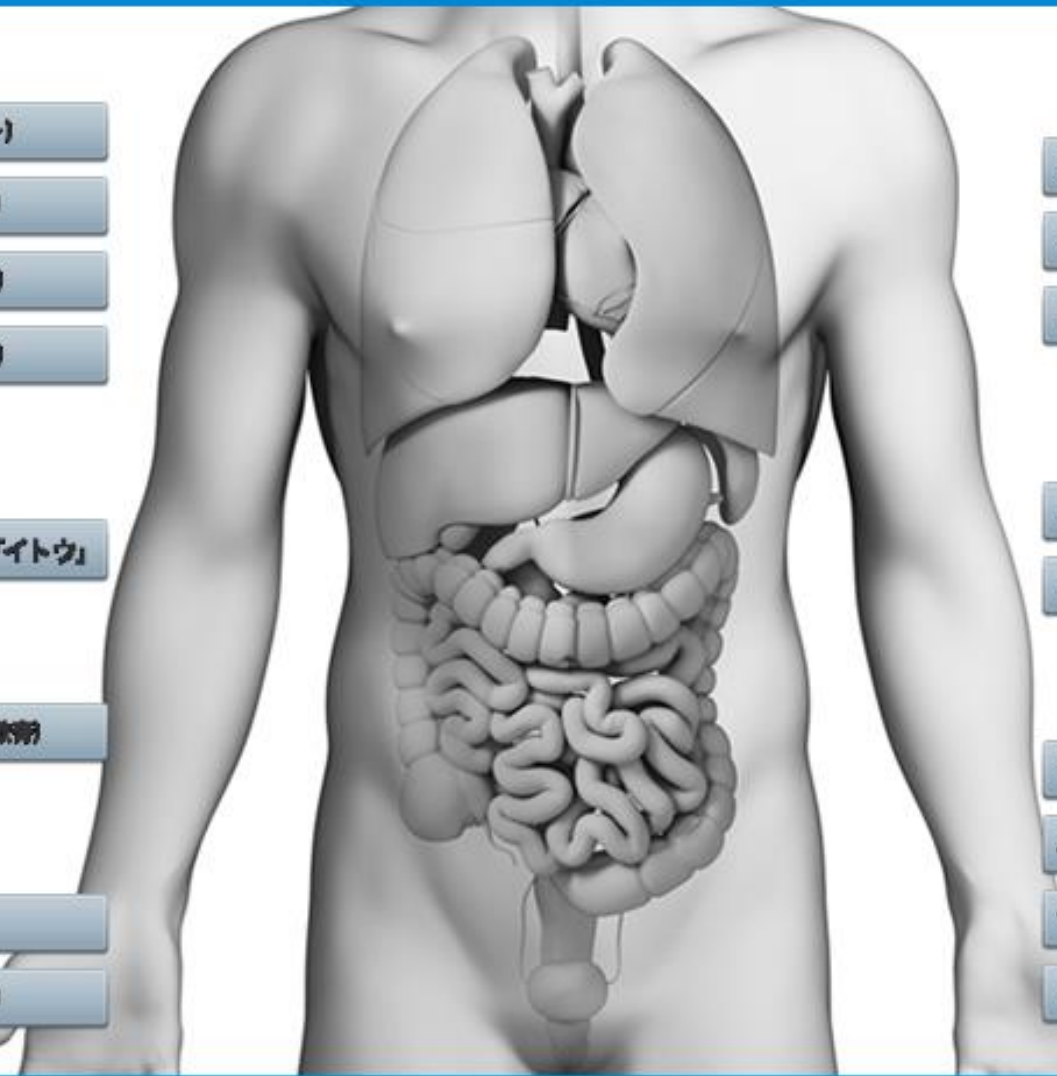



1996
LIVACT®

味の素株式会社 (医薬品開発部門)


味の素製薬株式会社

味の素製薬（株）が注力する疾患領域




肝臓 


- リーバクト® (錠剤/ゼリー)
- ヘパシド® (配合内服剤)
- モリヘパミン® (点滴剤)
- アルギメート® (点滴剤)

膵臓 


- グルカゴン注射用1単位「イトウ」

肛門 


- プロクトセディル® (坐剤/錠剤)

全身 


- ESポリタミン® (錠剤)
- アルギU® (錠剤/点滴剤)

胃 

- アズロキサ® (錠剤/錠)
- マーズレン® (錠剤/錠)
- レンチナン錠注射用1mg 「味の素」

大腸・小腸 

- エレンタール® (配合内服剤)
- エレンタールP® (配合内服剤)

大腸 

- モビブレップ® (配合内服剤)
- ニフレック® (配合内服剤)
- テレミンソフト® (坐剤)
- エンテロノン®-R錠

味の素製薬（株）の産官学連携企画

味の素製薬（株）では、消化器関連疾患（肝臓・膵臓・胆嚢疾患等含む）を中心とした産学連携の取組みを積極的に行っています。2011年から毎年、弊社Wish Listに基づく公募事業をさせていただいており、これまでも共同研究、技術移転を活用した医薬品開発を推進しております。

味の素製薬（株）の産学連携企画の特徴

特徴①

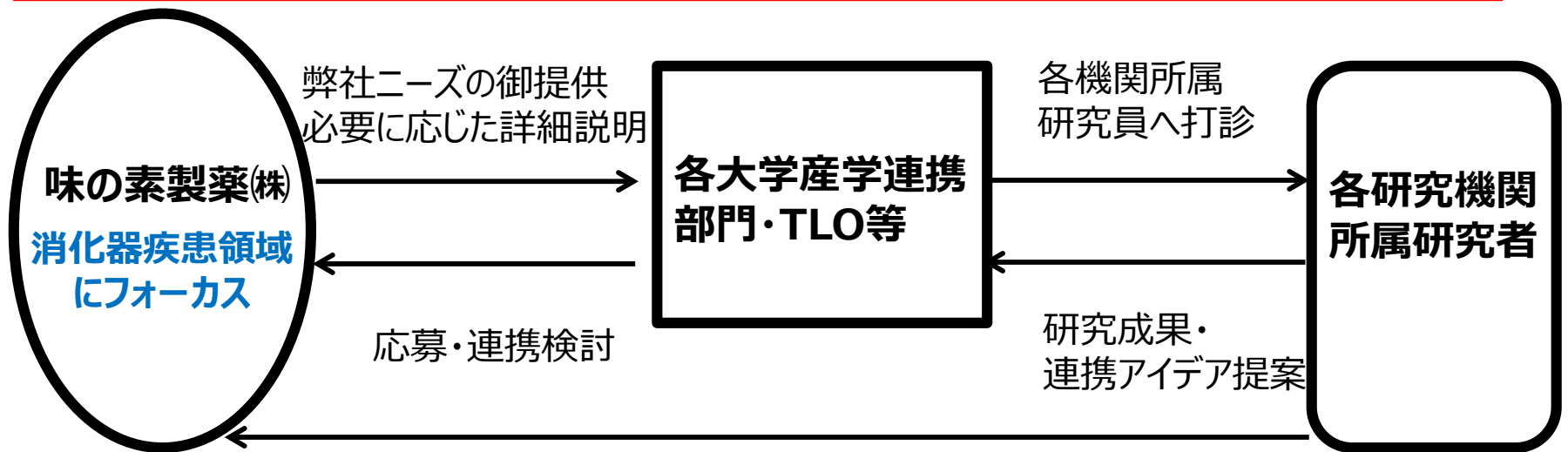
各大学産学連携部門・TLOの方々にWISHリスト・応募要項を直接提示

特徴②

消化器疾患領域にフォーカス

特徴③

幅広い分野からの連携パートナーを検討。枠組み（期間・費用等）は協議の上で最善のスタイルを設定



各大学産学連携部門・TLOとのネットワークを拡大中

【参考】14年度のアカデミア公募概要

消化器関連疾患を中心に、弊社との共同研究、あるいは技術移転の候補となる案件をお持ちの場合に御提案いただければ幸いです。

なお、他疾患領域や工学・理学技術からの展開等、幅広い分野からの御提案も期待しております。

① 創薬候補提案プロジェクト

炎症性腸疾患 (Inflammatory bowel disease : IBD) 及びその合併症 (狭窄・線維化および、痔瘻、瘻孔) に対する創薬候補を求めます。

② 革新的治療・診断技術プロジェクト

難治性の消化器関連疾患における、未充足ニーズの克服を目指した、他に類のない革新的な治療・診断技術を求めます。

③ 早期開発ステージプロジェクト

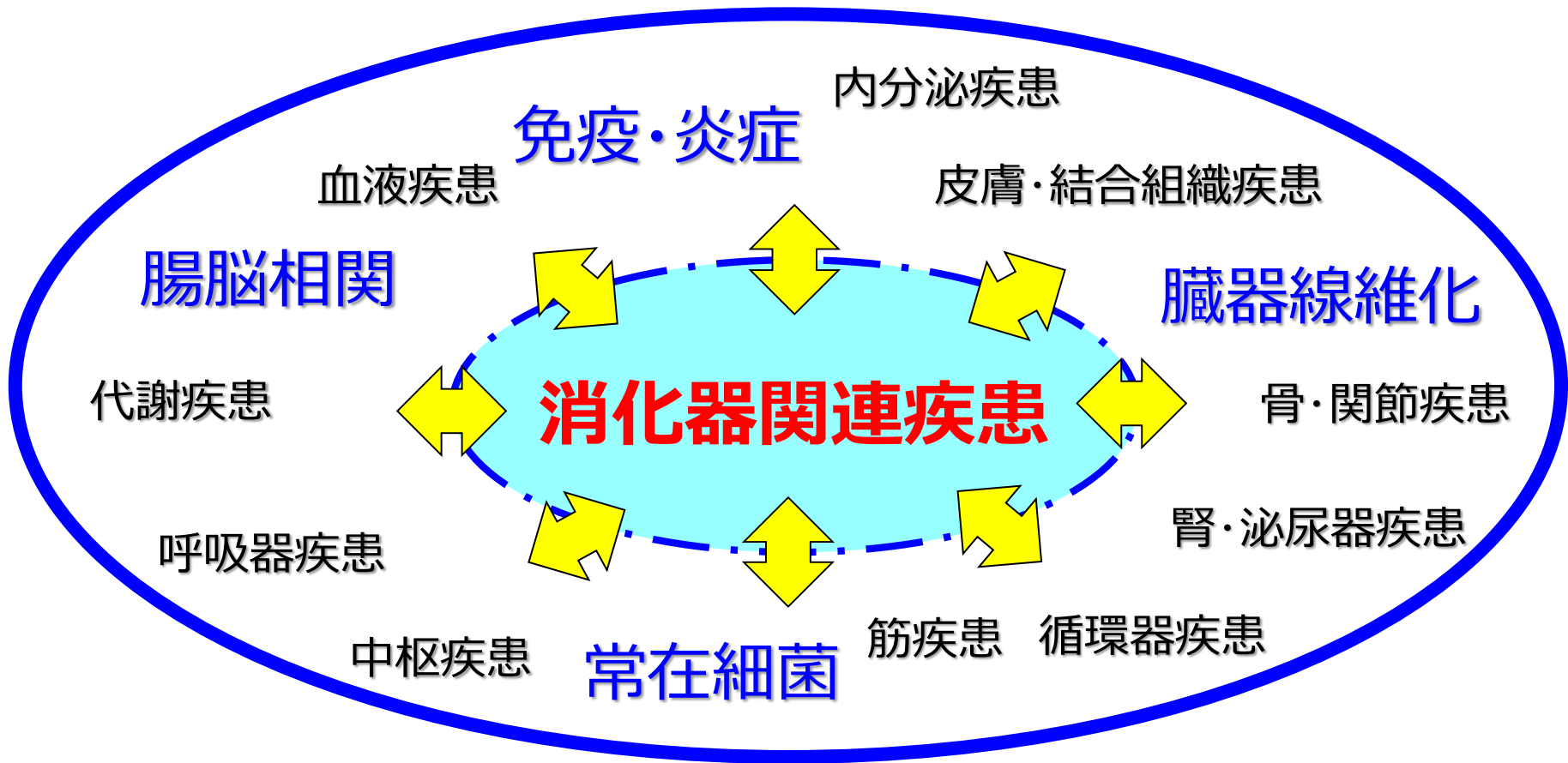
IBDならびに消化器関連疾患治療を目的とした非臨床検証が、既に十分進められており、早期に臨床開発ステージに移行可能な医薬品候補の提案を求めます。

14年度公募期間は既に終了しておりますが、御提案があれば個別にお受けいたします。

味の素製薬(株)アカデミア公募の実績

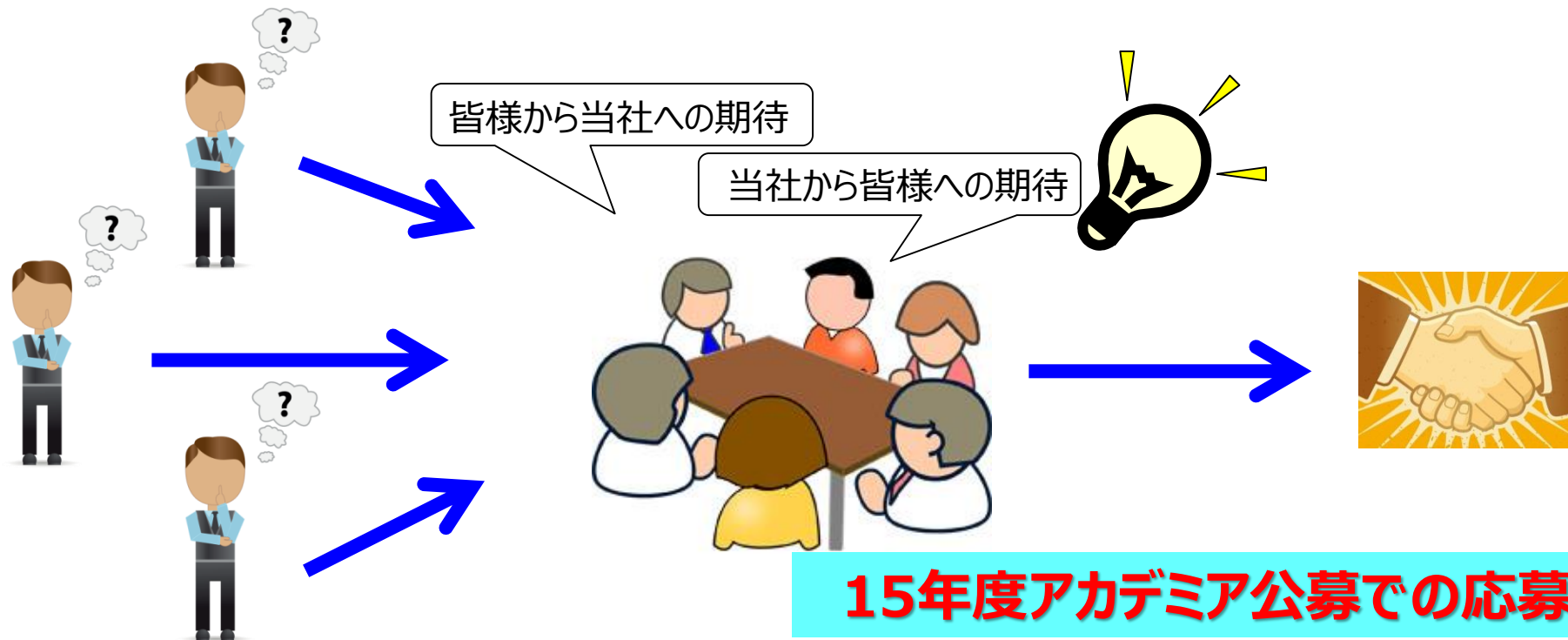
- 毎年、10月～11月にかけて開示させていただき、当社の募集案件（Wish List）に対し、全国の大学・公的機関の研究者から毎年数十～百件程度の応募を受領。
- 当社研究員による書類選考を経た後、総応募数のうち2～3割程度の応募者と当社研究員との直接の話し合いを行うことで、双方にとっての最適な連携方法を議論。
- 毎年、数件の共同研究契約を締結し、双方向の密な連携の下で、創薬研究を推進中。

味の素製薬(株)が取組む消化器関連疾患の創薬研究



様々な疾患分野の研究を融合させ、これまでにない視点や発想からの革新的な消化器関連疾患の治療薬開発につなげる

味の素製薬(株)との意見交換のお誘い



15年度アカデミア公募での応募

もしかしたら消化器疾患にも応用できるかも・・・

味の素製薬(株)担当者との連携可能性を意見交換

御提案と弊社ニーズが一致すれば連携スタート！

なお、既に具体的な御提案をいただける場合は、個別に御相談ください。

味の素製薬（株）より 皆様へ

味の素製薬(株)は皆様とのオープンイノベーションの機会を広く求めています。

なお、今年度に予定しております、新たな公募の内容詳細
については、決まり次第、産学連携窓口様を通じて皆様
にお知らせいたします。



ひとを見つめる創薬

味の素製薬(株) アカデミア公募

お問い合わせ : plr2_academia_ajis@ajinomoto.com